

POWER FILE★1143



東急カルチャーウォーク2017

琵琶湖疏水と京都の近代化～いまにつながる流れをたどる～

山科から蹴上へ、琵琶湖疏水をたどってウォーク。

関西東急会とKBS京都が主催する「東急カルチャーウォーク」が、この秋も10月1日(日)に開催されました。京の地に息づく歴史と文化を体感しながら、名所をめぐる恒例のウォークイベント。スタンプを集めながら歩き、トークイベントや抽選会も行われるゴールをめざします。

今回は「琵琶湖疏水と京都の近代化～いまにつながる流れをたどる」と題して、山科から蹴上エリアを舞台に開催。琵琶湖疏水の流れをたどって歩き、明治期の京都に吹いた近代化の風を感じます。今回は約800名がエントリー。さらにカルチャーウォークといえばこの二人、梶原誠アナと海平和アナも同行し、参加者と楽しく交流しながら、随時ラジオにレポートもお届けしました。

疎水沿いの名所・旧跡を繋ぎながら、のんびりと散策。

地下鉄山科駅前にあるラクト山科公園をスタートし、ゴールの岡崎公園まで、琵琶湖疏水の流れをたどる10キロが今回のコース。朝9時過ぎ、梶原・海平コンビがイベント主催の関西東急会の津久井会長と一緒に「われら夢の途中」(日/9時～12時)へスタート地点の賑わいをお伝えしました。

そして二人も、みなさんと一緒に元気に出発。諸羽トンネル西広場を通過し、毘沙門堂に到着したところで、再びラジオレポートの時間となりました。イベントでは、NPO法人京都映画倶楽部の協力により、コース上のポイントに時代衣装姿の俳優さんがスタンバイ。参加者とふれあいながら、まち歩きを盛り上げてくれます。毘沙門堂でも近藤勇に扮した俳優さんとやりとりし、楽しいレポートになりました。



さらに洛東高校前から、天智天皇山科陵へ向かって疎水沿いを歩く参加者。およそ1時間の散策を経てたどり着いた

小さな橋が、日本初のコンクリート橋です。ここで進路を国道沿いに取り、いざ蹴上へ。上り坂も、参加者同士語りつつの楽しい道中となりました。



そして、琵琶湖疏水記念館から最後のレポートタイム。明治時代から京都市民の暮らしを支えてきた水の流れをたどり、先人の偉業を偲んできたウォーキングも、

いよいよゴール間近となりました。

トークや抽選会など、楽しいゴールイベントも開催。

参加者たちを出迎えたゴール地点の岡崎公園では、この日「京都岡崎であい・いきいきパーク2017」を開催。平安神宮を背にした特設ステージで公開生放送などが行われるなか、13



時からは梶原・海平コンビによるゴールイベントが繰り広げられました。

東急スポーツオアシスインストラクターによるストレッチ体操、主催者の挨拶に続いて、トークイベントも開催。映画監督の中島貞夫さんを迎えて、映画と京都にまつわるさまざまなお話を伺いました。さらに、道中を盛り上げてくれた東映剣会の俳優さんたちが、時代劇の殺陣パフォーマンスを展開。海平アナも殺陣に挑戦し、ステージ前は大いに沸きました。

最後は、宿泊券や食事券をはじめ豪華賞品が当たる大抽選会。楽しいイベントの数々で、ウォーキングの疲れを忘れるひとときとなりました。



来秋もまた、古くて新しい京都を発見する一日を、みなさんと共有できればと願っています。